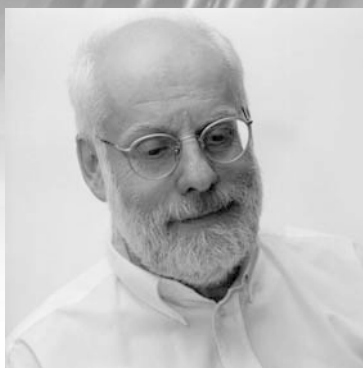


TON KOOPMAN ORGAN RECITAL

plays J.S. BACH



古楽界を代表するオルガン・チェンバロ奏者として、日本にも多くの弟子を持つコープマンは、近年、指揮者としても、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ボストン交響楽団、ウィーン交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニックなど世界の一流オーケストラと次々と共演を果たし、その卓越した音楽解釈と統率力で各オーケストラから絶大な信頼を得ています。

もちろん自身の創設したアムステルダム・バロック管弦楽団、同合唱団とも精力的に公演や録音を続けており、2011年にはバッハのチェンバロ協奏曲・全曲演奏の世界ツアーも企画しているなど、その活躍ぶりは止まるところを知りません。

古楽界の重鎮にして、バッハの鍵盤作品については間違いなく現代最高峰の演奏家のひとりと言えるコープマン、11年ぶりとなる札幌でのオルガン・リサイタルにご期待ください。

トン・コープマン (オルガン・チェンバロ・指揮)

1944年オランダ東部のズウォレに生まれる。アムステルダムにて、古典学を修めた後、オルガン、チェンバロ、音楽学を学び、両楽器演奏では優秀賞を受ける。音楽を学びはじめて間もなく古楽器と古楽の学識に基づいた演奏スタイルの魅力にひかれ、彼の音楽的キャリアの土台が形成されはじめ、1969年25歳で最初のバロック・オーケストラを立ち上げることとなる。そして1979年アムステルダム・バロック管弦楽団を結成し、その後1992年にはアムステルダム・バロック合唱団を作った。

ソリスト、伴奏者、そして指揮者として幅広くまた印象深い活躍をし、エラート、ソニー、フィリップス、ドイツ・グラモフォン、そして独自のレーベル“アントワーヌ・マルシャン” (チャレンジ・レコーズによる販売)などで多数の録音がある。

45年を越える長いキャリアを持ち、これまでに世界中の高名なコンサート・ホール、著名な音楽祭に多数出演している。オルガニストとしては、ヨーロッパで最も伝統のある名器で演奏しており、チェンバロ奏者そしてまたアムステルダム・バロック管弦楽団及び合唱団の指揮者として、アムステルダムのコンサートヘボウ、パリのシャンゼリゼ劇場、ミュンヘンのフィルハーモニー・ホール、フランクフルトのアルテ・オーバー、ニューヨークのリンカーン・センター、カーネギーホール、ウィーン、ロンドン、ベルリン、ローマ、サルツブルクなどの著名なホールにて定期的に客演している。

1994年から2004年にかけて、J.S.バッハの現存するカンタータ全曲を指揮し録音するプロジェクトに取り組む。この偉業により、ドイツのレコード大賞“エコー・クラシック” BBC賞2008などを受賞。また、米国のグラミー賞、英国のグラモフォン賞にそれぞれノミネー

トされた。2000年にはオランダのユトレヒト大学より、バッハのcantataと受難曲の研究に対して名誉学位が贈られ、また、シルバー・フォノグラフ賞や、VSCDクラシック音楽員も授与された。2006年にはライブツィヒ市よりバッハ栄誉賞が贈られた。

最近では、若い時のバッハに多大な影響を与えたディートリヒ・ブクステフーデの全作品の録音というプロジェクトも手がけており、2010年までにCD30枚がリリースされる予定である。国際ディートリヒ・ブクステフーデ協会の代表を務め、2007年ブクステフーデ音楽祭を組織している。

指揮者としてもロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、ボストン交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ウィーン交響楽団、デンマーク放送管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、ベルリン・ドイツ交響楽団、ストックホルム・フィルなどに客演。オランダ放送室内管弦楽団では首席指揮者を務める。また、2008年初頭のツアーが大成功を収めたため、2010年から3年間、クリーヴランド管弦楽団のアーティスト・イン・レジデンスとなる。

定期的に出版も行ない、長い年月をかけ、ヘンデルのオルガン協奏曲全曲などの編集に携わっている。

ハーグ王立音楽院でチェンバロの指導にあたり、ライデン大学の教授。ロンドン王立音楽アカデミー名誉会員。

2011年から3年間をかけバッハのチェンバロ協奏曲を全曲演奏するコンサートツアーを企画中。

KCCO FM 78.1MHz 谷口静司のコンサートナビゲーション
ラジオカロスサッポロ 放送中 毎週日曜 午後9:00~11:00